



JIS Q 22320 (危機管理) の調査

2015.6.16

社会セキュリティ研究会

大成建設株式会社

NTTセキュアプラットフォーム研究所

天野 明夫

爰川 知宏

■ 経緯

- ◆ 昨年夏から活動を始めH P 上では今年 5 月に設立

■ 活動目的

- ◆ ISO22320の普及・啓発

- ISO22320（JISQ22320）の活用に関するC L 開発
- 活用することの利点・必要性を周知⇒普及・啓発

■ 将来構想

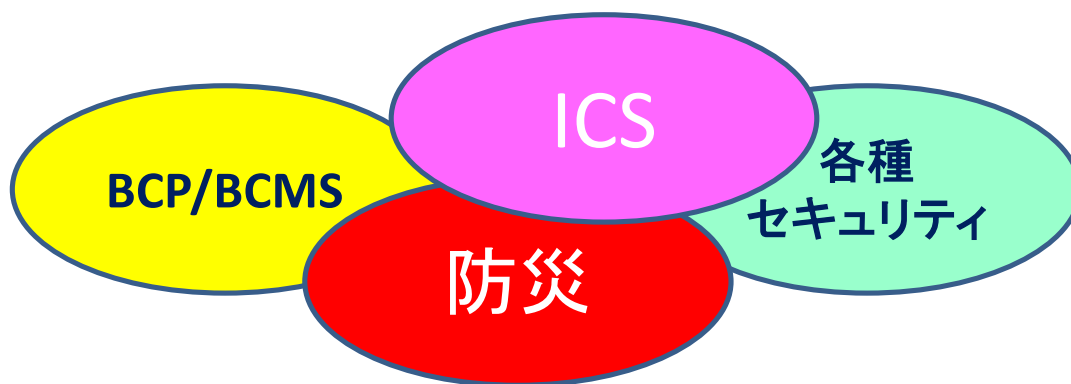
- ◆ 自己認証・ユーザー認証のための制度設計
- 内部監査員の養成

JIS Q 22320 (ISO22320)とは



- 危機管理に関する**ISO22320**（社会セキュリティ：危機対応に関する要求事項）が2011.11に発行された
- 日本国内においては2013.10に**工業規格化された（JIS Q22320）**

- ◆ 第三者認証機関による認証規格ではない
- ◆ 自己認証およびユーザー認証（第三者認証）による
- ◆ 緊急事態管理のすべての基礎となる



世界に通じる 危機対応

ISO 22320²⁰¹¹
(JIS Q 22320²⁰¹³)

社会セキュリティー緊急事態管理
ー危機対応に関する要求事項 解説

編集委員長 林 春男
危機対応標準化研究会 編著

なぜ 危機対応に
標準化が必要なのか？

効果的な危機対応の実現に向けて、指揮・統制のあり方、危機対応に
用いる活動情報処理のあり方、部局間・組織間の協力及び連携のあり
方について最低限考慮すべき事柄をまとめた国際規格 ISO 22320、今
後予想される大規模な危機的事態を前に、本規格の有効性と危機対応
における標準化の重要性を実際の事例等も交えながら解説！

日本規格協会

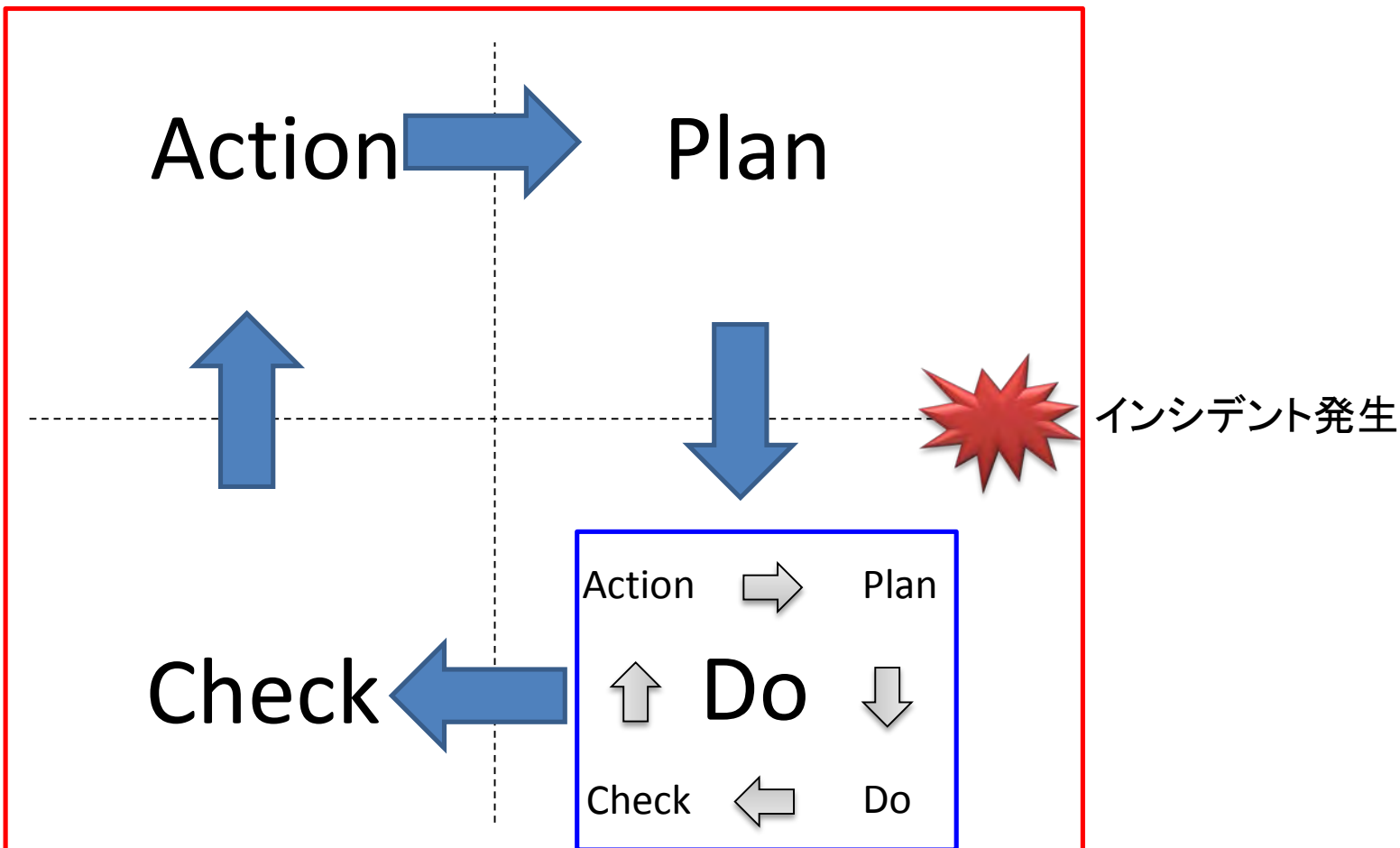
世界に通じる危機対応 ISO 22320:2011 (JIS Q 22320:2013) 社会セキュリティー緊急事態管理ー 危機対応に関する要求事項 解説

編集委員長 林 春男
危機対応標準化研究会 編著
出版 日本規格協会
定価 3,200円（税抜）
2014年5月19日発行

危機管理のマネジメント・サイクル



ISO22301



現場マネジメント(短期)
ISO22320

簡易版チェックリストの開発



- ◆ ISO22320を**企業・自治体等を問わず広くかつ迅速に普及**させるためのツールとして開発
- ◆ ISO22320の**概略を理解いただく**とともに、自組織がその内容をどの程度考慮できているかを**簡易に可視化**することが目的
- ◆ 危機対応に携わっている担当者もしくは管理者で、ISO22320の内容に**十分に精通していない方の利用を想定**
- ◆ 本チェックリストを用いることで、以下の実現をめざす。
 - **組織の種類によらずレジリエンス力（防災力）を客観的に確認**
 - 他組織との比較により、**自組織の強み・弱みを把握し、自組織のレジリエンス向上に向けた具体策の検討に活用**

◆ 要求事項の抽出

- 文章として書かれているためどう読めば対応したことになるのかが直感的にわかりづらく、数も多いため、要求事項の抽出や対応状況の確認が困難 → **チェック項目の精査**

◆ 用語・説明の理解

- 標準規格独自の言い回しや業界毎に異なる用語などがあるため、自治体職員等が読み解くのは困難表示
→ **表現の見直し（「～している」調に変更）**

◆ 対応レベルの把握

- 要求事項のうち、どこまで対応できているかが直感的にわかりづらく、自組織の対応の弱点や他組織との比較を行うのが困難 → **レーダーチャートによる可視化**

- ◆ ISO22320原文で“**shall**”で記された部分(63件)を精査
- ◆ 以下の観点で不要と思われる部分を集約・統合
 - 階層関係にある要求事項（下位で詳細化、もしくは上位で絞り込み）
 - － 計7件
 - 他の要求事項と補完関係（一方を満たせば自動的に満たされるもの）がある／統合が可能な要求事項
 - － 計18件
 - ドキュメント化や実施レベルの評価が困難な要求事項（心得的なもの、担当者のスキル依存なもの）
 - － 計5件

→精査の結果、63件→33件に集約

■ 評価の目的

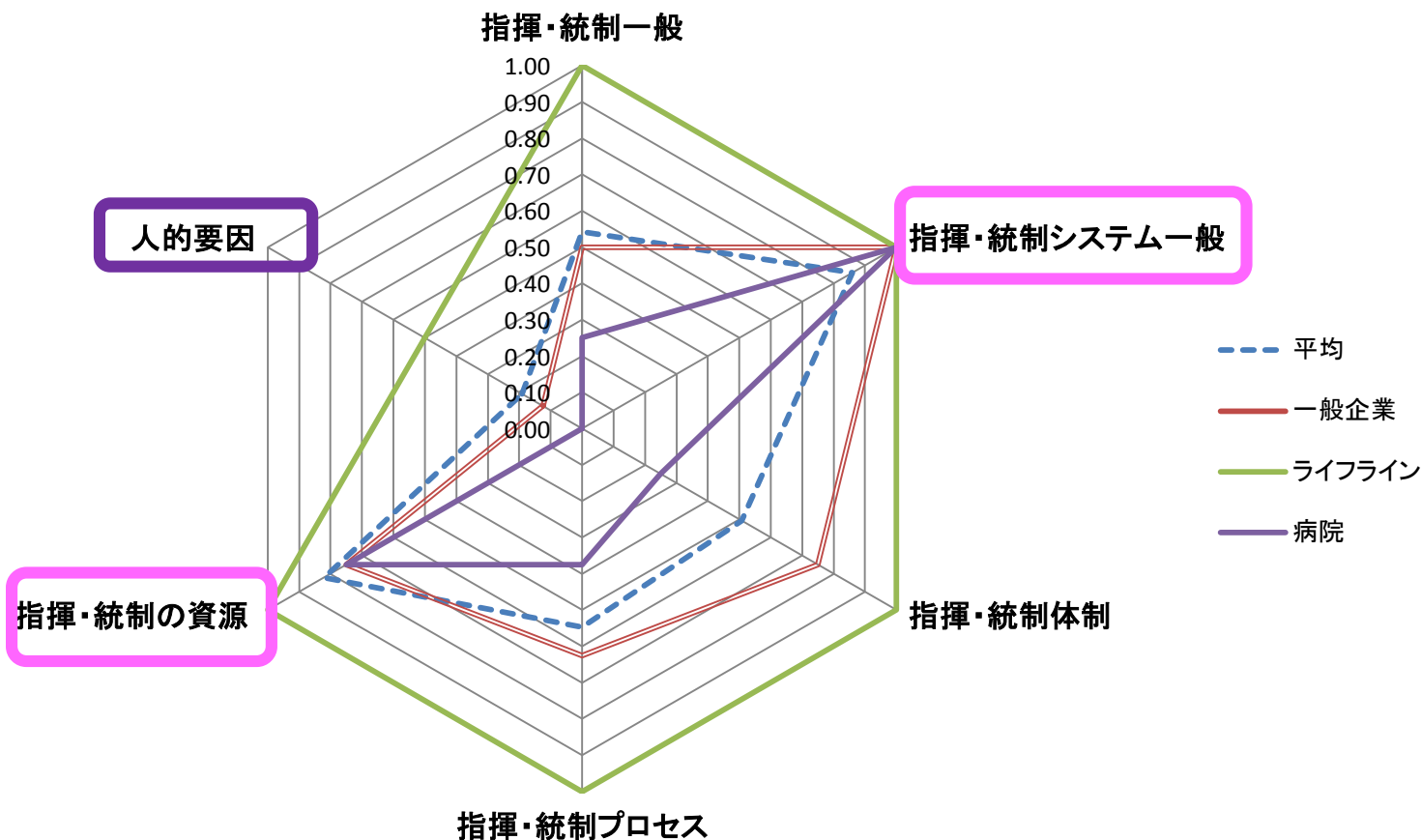
- ◆ 本チェックリスト自体の整備に向けた課題抽出
- ◆ 現状の対応状況の傾向確認

■ 評価対象

- ◆ 対象組織数：12組織
 - 一般企業：4組織
 - ライフライン企業：3組織
 - 病院：4組織
 - 自治体：1組織
- ◆ チェックリスト(プレ評価版)の構成
 - 各項目の選択肢は○×（できている／できていない）の2択

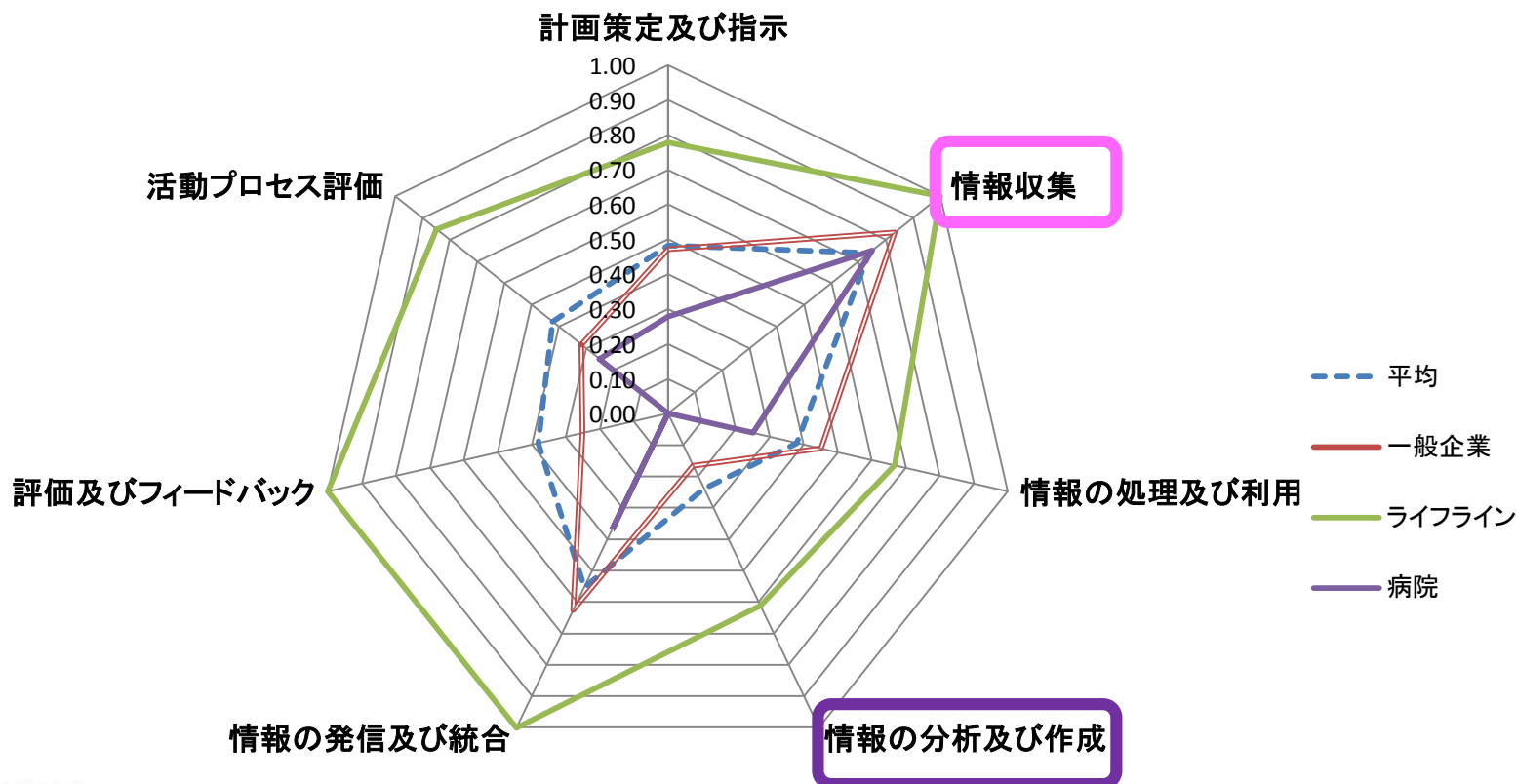
プレ評価(4章:指揮・統制)

- 指揮・統制システム一般、および資源のスコア大
- 一方、人的要因に関するスコアはかなり低い
-> 人的要因は精神論任せ？



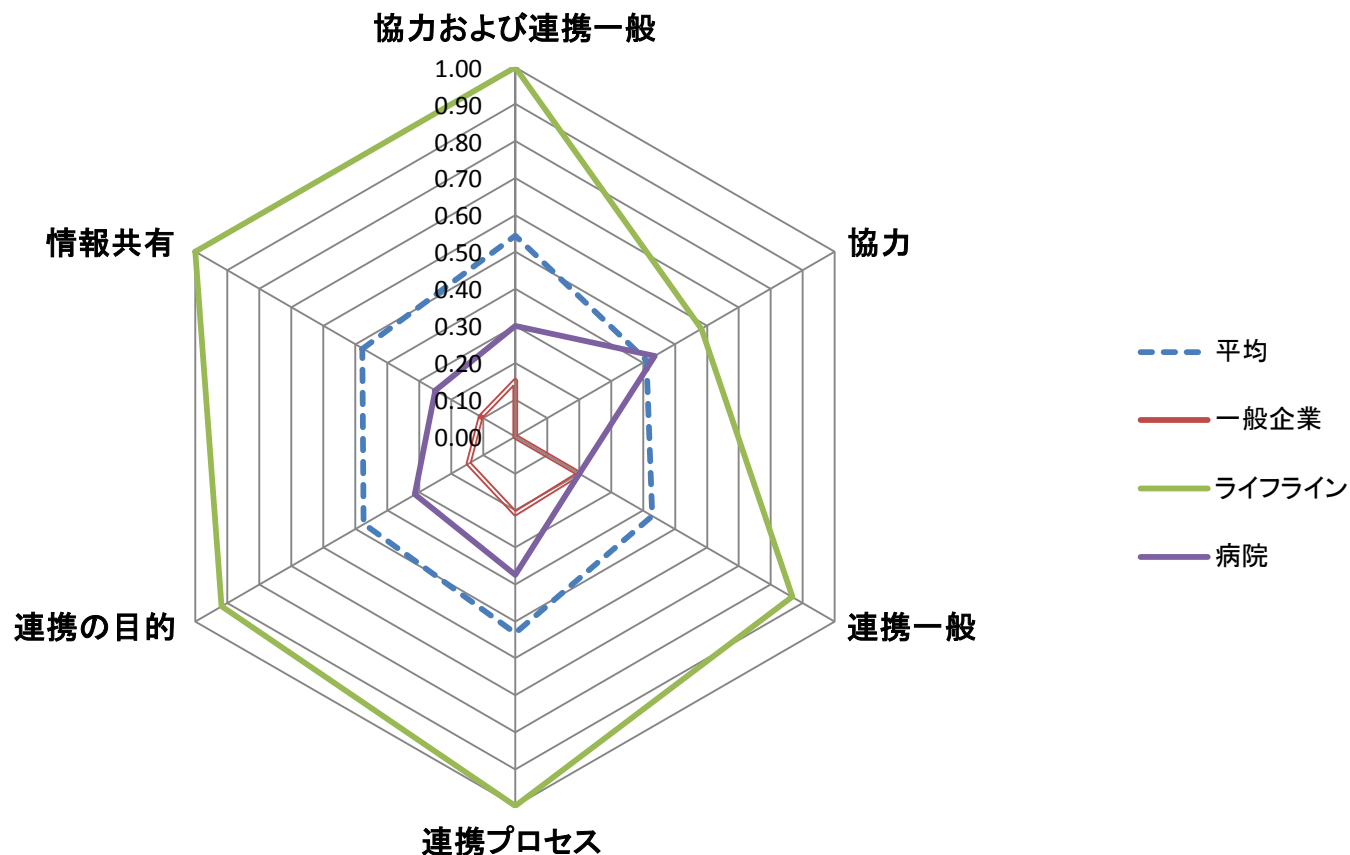
プレ評価(5章:活動情報)

- 情報収集のスコア大
- 情報分析のスコアが小
 - > せっかく集めた情報を生かし切れていない？



プレ評価(6章:協力および連携)

- 組織間の差異が大きすぎて特定の傾向は見えていない
->「協力・連携できている」のレベル感に組織 (or担当者?)間の差が大



プレ評価からのフィードバック



■プレ評価でのフィードバックを受け、正式配布版を作成

- ◆ チェック結果が担当者や対象とする災害種別等に依存する。
→ **プロフィール入力欄の追加**
- ◆ 設問の意味やチェックする意義がわかりづらい項目がある。
→ **解説および「適用しない場合のデメリット」の追記**
- ◆ ○×での判断が難しい項目がある。
→ **相対評価の導入**
- ◆ すべてが必要な項目とは限らない。
→ **必要性および達成度の2軸での評価**

■ 対象組織およびチェック担当者のプロフィールを抽出 → 業界毎の特性や担当者の立場等による傾向分析に活用

●対象組織のプロフィール

組織の種別	
「その他」の場合	
組織の規模	
常設の危機対応部署の有無	☒ あり ☐ なし
チェックの際に参照する資料(任意)	

ISO20121を参考

●想定している危機・災害事象(複数回答可)

☐ 自然災害	地震・津波、風水害、噴火、落雷、異常気象(猛暑、豪雪等)	☐ 交通	交通事故、混雑による遅延
☐ 感染症	新型インフルエンザ等	☐ 人権	宗教・人種・社会的弱者への差別や配慮不足、ハラスメント
☐ 事故	火災・爆発、施設・設備の交渉、群衆事故	☐ 労務	法令違反労働(労基法違反、外国人不法就労、児童労働等)、従事者の労働災害、従事者による大規模ストライキ
☐ インフラ	停電、断水、通信ネットワークの断絶	☐ 法務	イベント関係者の不正行為(贈収賄等)、知的財産権の侵害、独占禁止法・競争法等法令違反
☐ テロ・犯罪	テロ、窃盗、不法侵入等	☐ 社会	戦争・暴動の発生、治安悪化、風評、メディアとのコミュニケーション
☐ ICT	情報漏洩、障害、サイバー攻撃	☐ 環境	資源・エネルギーの消費、廃棄物の発生、危険物質の流出、環境や生態系の破壊
☐ 製品・サービス	製品の瑕疵	☐ 地域	地域住民の許容を超える騒音、地域コミュニティ・住民との摩擦、地域経済への影響(雇用、施設整備、観光等)
☐ サプライチェーン	サプライヤ倒産、操業停止	☐ その他	

●チェック担当者のプロフィール

あなたの立場	
ISO22320について	
チェック実施日	

チェック欄の構成

■ 必要性、達成度の観点から5段階評価でチェックを実施

ID	ISO 項番	表題	項目	必要性					達成度					判断資料または根拠(任意)
				不要←			→必須		できていない←			→できている		
1	4.1	指揮・統制一般	危機対応にあたる組織・要員には必要な権限や資源を用意している。	○	○	●	○	○	○	○	○	●	○	
2	4.1	指揮・統制一般	地域社会が参画しやすいように関係を構築・維持している。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	4.2.1	指揮・統制システム一般	危機事象が発生した際には速やかに体制を立上げ(対策本部を設置し)、必要なプロセスを開始し、リーダーを明確にしている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	4.2.1	指揮・統制システム一般	初期の行動を迷わず迅速に行うために、文書化している。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	4.2.3	指揮・統制体制	判断の種類に応じて指揮レベルを分けている。例えば活動方針や目的・目標を決める戦略的役割、どのような手法を用いるか、どのような資源を活用するのかを判断する戦術的役割など、	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6	4.2.5	指揮・統制プロセス	下記に列挙した活動を合理的な方法で繰り返し実行していく仕組みや手順を予め定め、全ての関係者に適用している。											
			— 観察											
			— 情報の収集、処理及び											
			— 予測を含めた状況の評											
			— 計画策定											
			— 意思決定及び決定事											
			— 決定事項の実施											

JIS Q 22320の
各節表題

チェック項目

必要性
自組織でこの項目がどの程度必要かを5段階で選択

達成度
自組織でこの項目がどの程度できているかを5段階で選択

チェックに至る
根拠(資料)を
記述
(任意)

解説	適用しない場合のデメリット
【指揮・統制一般】 危機対応における指揮・統制全体を通じて念頭に置くべき要素である。危機対応組織を機能的に運営するためには、組織毎に適切な資源が用意されているだけではなく、危機に対応するために、地域社会との連携が求められる可能性もある。	現場単位で必要とする資源・権限を用意されていなければ、即時性を求められる対応が限定され、危機を拡大させる可能性が高くなる。また、広域対応を求められる場合には、地域社会との良好な関係が維持されていなければ、対応が求められる可能性も高い。

節単位に以下を記載

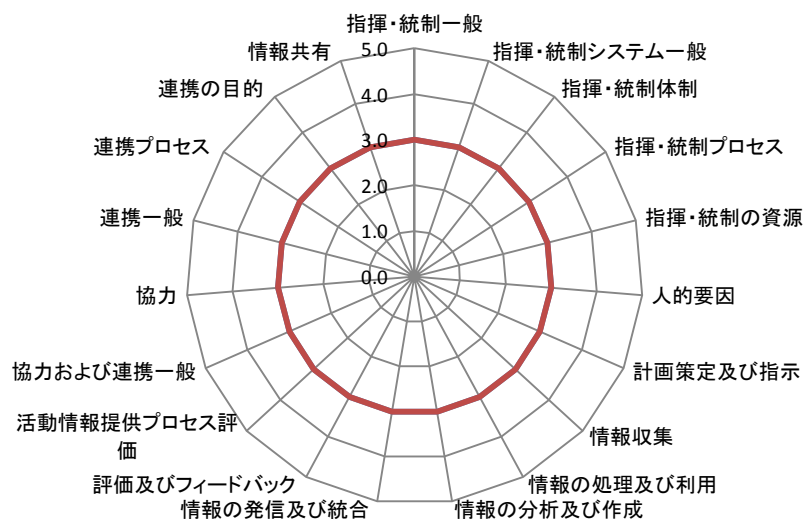
- ・簡単な解説
- ・チェック項目を適用しない場合のデメリット

チェック結果の表示

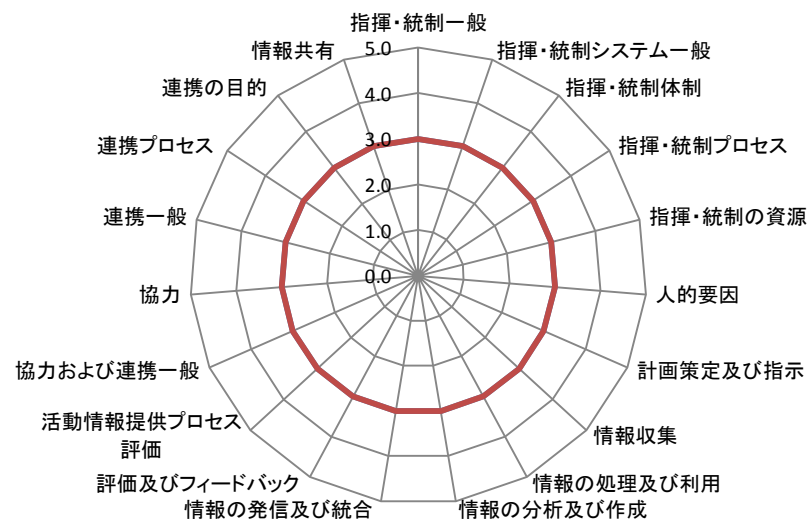


- 必要性、達成度それぞれを全19軸のレーダーチャートで表示
(最低点は1、最高点は5)

必要性



達成度



アンケート調査について

- 本チェックリストの本格活用に向け、調査に是非ご協力をお願いします。
レジリエンス協会Webページ→社会セキュリティ研究会
<https://resiliencej.wordpress.com/research/society/>



RRCJ
The Resilience Research Council of Japan

一般社団法人
レジリエンス協会

- レジリエンス関連規格等の紹介
- 協会の概要
- 次回の定例会
- 会報「レジリエンス・ビュー」
- メールマガジン
- 研究活動
- 会員のレジリエンス関係論文等
- 参考ファイル
- お問い合わせ



1. 社会セキュリティ研究会

レジリエンス協会のHPにてアクセスして頂いた皆様

当研究会はISO22320の普及を活動目的の一つとしておりますが、その一環として昨年度よりチェックリストの開発に取り組み、このたび2015年5月1日から添付のアンケート調査を実施することとなりました。対象は、広く組織全般（自治体・企業・病院・学校・防災団体・その他）です。

アンケート調査にご協力いただける組織の方は、添付に必要事項を記入の上、societal-security@lab.ntt.co.jp まで、送信をお願い致します。後日集計結果を送信申し上げます。

なお、締切日は以下の通りです。

- 2015年5月31日
- 2015年8月31日

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2015年5月8日

社会セキュリティ研究会

主催： 浅川知宏 日本電信電話株式会社

担当理事： 天野明夫 大成建設株式会社

調査票 -> 22320c1150510.xlsx

検索 ...

最近の投稿

BCI Supply Chain Resilience
Survey 2015

定例会：2015年3月24日（火）

定例会：2015年1月20日（火）

定例会：2014年11月13日（木）

定例会：2014年9月24日（水）

アーカイブ

2015年6月

2015年4月

2015年1月

2014年11月

2014年9月

2014年7月

2014年5月

2014年2月

チェック結果の返送先
societal-security@lab.ntt.co.jp

チェックリストのダウンロードリンク